

鵬 鷲

HOSAI

「鵬」は翼の巾3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬(おおとり)が飛ぶ(=はるかなかなたの)空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一歩一歩目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



八代経済開発同友会
(通巻第137号)

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail: jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com



八代経済開発同友会 令和4年度 スローガン

まずは、議論から始めよう そして、想定外の未来を想像しよう

八代経済開発同友会 第59代 代表幹事

村田眞一郎

2020年から始まるコロナ禍による変化は様々なものを浮き彫りにしました。これまで、個人と公共、資本主義と民主主義、グローバル化とナショナリズム、現実味をおびだしたメタバースでの活動と現実世界での生活、それら矛盾したものの同士のバランスが、日本においては、一見取れているかに見えていました。しかし、実態経済が止まる中それとは無関係な株価の変動や、世界における日本のGDPや平均賃金などの相対的な順位などが示すような、それまで見てみぬふりをして、理解できていたかにもついていた事柄やバランスが、実は得体がしれないものであり、コロナ禍という極限の状態、現実の差し迫った問題として現れたように思います。感染症による死亡率やワクチン接種率は、個人の自由を尊重する民主的な国ほどコントロール出来ず、独裁的な体制で強権的に対策する必要性まで議論されました。人口動態統計等によると、感染症とは別の死因が明らかに増えているというデータがありながら、コロナ禍による経済的な被害者は感染症による被害に隠れてしまっていました。また、ロックダウンによって機能停止したグローバル化したサプライチェーンの見直しも今後議論されることになるでしょう。

こういった、我々の判断の根源ともいべきもの、グローバル化や多様性の尊重が抱えている問題が露呈する中で、当たり前だと思っている価値観が根底から覆されようとしています。激動する環境の中において迷いそうになる時に、自分を見つめ直すための指針となり得るものが理念です。八代経済開発同友会には、受け継いだ理念があります。その理念をもとに、奉仕の志をもって、幸福感とは何か、地域の活力とは何かをあらためて、共に集い、学びあうことで世界を俯瞰しなおしつつ、再度我々の立脚点を確認し、その上でこれからの未来に思いを馳せたいと考えます。

とは言っても、我々は経済人であり、普段の仕事や経営においては、今後の世界や人類の未来ではなく、まずは今の環境へ適応し、小さなコミュニティの実体経済の中で利益を上げていく事が最優先です。そこでは、昼間は汗を流して今の仕事に

そしみ、これまでの経験やデータに基づくある程度想定内の予測をする事が精一杯です。視野は狭く、近視眼的にもなりません。しかも、その方が上手くいくこともあり、コロナ禍ではその傾向がさらに大きくなっています。長期的な目線で見ると、その延長線上に明るい未来を描けない経営者もいると思います。

コロナ禍において我々のこれまでの基盤自体が揺らぐ中では、現在の延長線上に未来への希望を描きづらい状況です。しかし逆に考えると、コロナ禍だからこそ見えた価値観が覆されるような変化は、その延長線上ではない、全く新しい世界が広がりつつあるその変化でもあります。その新しい世界を新しい視点で俯瞰して、想定外の未来を実現するために集い学ぼうというのが八代経済開発同友会の存在意義だと考えます。仕事を終え作業着を脱いだら、スイッチを切り替えて、過去のデータにとらわれるだけの想定された未来ではなく、全く違う視点や考え方を得て、今の時点では想像もつかない未来を仲間と語り合うために集いましょう。

本年度は、6つのテーマで委員会を設けて、各テーマに対しての各会員のスタンス、考え方を確認することからスタートします。会員間の考え方や情報等の交換をし、合意形成を目的とした議論の場にしたいと考えます。

新しいビジネスモデルの可能性を検討する委員会として、「協働組織活性化委員会」「テクノロジートrend研究委員会」を設置し、新しいテクノロジーとそのtrendを研究し、未来の新しいビジネスモデルの可能性を検討します。

地域活性化については、「八代・天草シーライン建設促進委員会」「八代魅力発信委員会」を設置し、地方のあり方、生き残り方の根本から議論します。また、コンテンツありきではなく、すでにあるものを新しいテクノロジーを使って有機的に組み合わせる有効に発信できないかなど、地域活性化事業としても考え直します。

コミュニケーションのあり方を考える委員会として、「次世代の未来をつくる委員会」「情報システム委員会」を設置し、会

内外のコミュニケーションだけでなく世代間など、コミュニケーションのあり方を研究し、手法を検討します。会内においては、各委員会の内容やテーマについても、横断的に全会で共有することを目指します。

まずは、各テーマについて、タブーなしで喧々諤々の議論をしていただき、これまでにない新しい価値観を産む土壌にしたいと考えます。

八代経済開発同友会は、来年で60周年を迎えます。間

違いなく起こる大変動を八代経済開発同友会はチャンスに変えるべく進んで参ります。八代地域でも、コロナ禍で経済的なもののみならず、文化的・教育的な既存のさまざまなコミュニティが疲弊しています。行政の皆様、各関係諸団体の皆様とは、今後地域の未来のために立て直すべきものは立て直し、新たに築くべきものは共に築いていかなくてはなりません。これまで同様にご指導、ご支援を賜りたく存じ上げます。

委員会基本方針

八代・天草シーライン建設促進委員会

委員長 田 添 尊 祐



令和3年2月に蒲島知事の主導の下、熊本県が地元とともに国への要望等の推進活動に取り組むことを目的とした「八代・天草シーライン建設促進協議会」が発足し、6月には熊本県、7月には国土交通省の新広域道路計画に八代・

天草シーラインが構想路線として初めて計画に挙がり、実現性に向け期待が高まっています。

本年度、八代・天草シーライン建設促進委員会は、構想路線から次のステップに進めるために八代・天草シーライン建設促進民間協力期成会を始め他団体とこれまで以上に連携を強化し、産業面・観光面・防災面・生活面など多方面において、八代・天草及び県南地域で多様かつ新しい価値が創出され好循環が期待できるような取り組みを考えて参ります。さらに、建設促進に民間として何ができるか検討し効果的な情報発信と市民への浸透を図るために有識者や専門家の方々と学生や若者を始め色々な方々との意見交流会を開き、対話をおこない民間ならではの自由な発想で5年後、10年後さらには30年後の八代の将来像を考える場を作りたいと思います。

皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

八代魅力発進委員会

委員長 守 田 邦 宏



八代では、経済開発同友会をはじめ、多くの団体や各行政が地域活性の為にこれまで多岐にわたる取り組みを行っております。しかしながら八代の人口は、減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと予測されております。2040年問題を

鑑みても人口の減少、特に現役世代の人口減少は、経済や流通の鈍化につながり、地域活性を考える際に避けることのできない事項と考えております。

地域活性に対して、まずは行政や他団体と八代のこれまでの推移や現状を改めて振り返り、八代地域経済や地域活

性、人口減少などの諸問題を改善する視点を基に、今後取り組むべき方向性を見出していく必要があると思います。

また他団体との意見交換を基に、八代市に具体的な意見を具申したいと思っております。そして八代には『交通インフラの結節点』をはじめ、そもそも多くの魅力が存在し、それらを新たなテクノロジーを使い複合的に市内外の方々へ発信し続けることも重要であろうと考えております。

魅力を発信し続けることにより、八代は豊かに住みやすい街というコンセンサスを得て『ヒトが増え、モノがあふれ、経済が回る』ことにより地域活性が加速すると考えます。

本年1年間という限られた時間ではありますが、会員同士また、行政や多くの他団体の方と議論を深めあい、いまある八代の魅力を基に地域活性の一助となるよう邁進させていただきます。

協働組織活性化委員会

委員長 一 美 慎 也



近年、持続可能な社会の実現という言葉をよく耳にするようになりました。その言葉を耳にするたびに、現在の社会の在り方では将来持続できないという危機感の表れや警告のように感じます。

社会を取り巻く状況が大きく変わり地域課題が多様化・複雑化するなか、その解決のためには特定の産業や分野だけでの限定的な取組みではなく、これまでの枠にとらわれず産業・分野・世代・性別・地域を超えて、新たな視点を持って一緒に持続可能な社会を実現する仕組みや組織を構築する重要性がとても高まっていると感じます。

SDGsでは、それら課題の解決手段の一つとしてパートナーシップ(協働)を掲げています。「協働」は、様々な方が信頼関係を築き連携することで、各自が持つ課題の同時解決が期待できます。

課題は、経済活動のみならず、気候変動、生物多様性、働き方、サプライチェーンなど広範に及びますが、「TUNAGU事業」を有効活用しながら協働できる組織を作り、共に目指す理想の未来を明確に描き、その未来を実現するために何ができるのかをバックキャストで考え取組んでいけば

持続可能な社会を実現できると考えます。

本委員会は、協働組織によって持続可能な未来を創り出すために「TUNAGU事業」をより発展浸透させることで、八代経済開発同友会の理念である「幸福感のある企業と活力ある地域づくり」に貢献する。」ことを目指します。

想定外の未来を実現するため「NO BORDERS」をキーワードとして既成概念にとらわれない協働組織の可能性を探求することで、持続可能な社会の実現に少しでも近づけると確信しています。

1年間、新たな可能性を探求して参りますので委員会会員はもちろん、全会員皆様のご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

テクノロジートレンド研究委員会

委員長 道田 好日



テクノロジーの今を感じる

私が子供の頃には無かったスマートフォンは今や9割の普及率を超え、パソコンやインターネットなどテクノロジーの進歩により私たちの生活は大変豊かになりました。しかし、同時に「おつり」を知らない子供たちがいるように、デジタル化の影響は今まで想像もしなかった社会現象を起こしています。そんな中、2018年から経済産業省がDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、コロナ禍や働き方改革により現在はDXの波も目の前に押し寄せてきています。DXは中小企業も避けては通れない壁であり、デジタル化という時代の流れに上手に乗ることがビジネスで必要不可欠な要素となっています。

本委員会は今年度新しく設置されましたが、まずは実用化されているテクノロジーに焦点を絞り、今流行っているが“いまさら聞けないこと”や近い将来流行るかもしれない“知りたいこと”や“関心ごと”を選定し、会員全員が学べるような会員の為の委員会を目指します。新しい商品やサービスに活用されているテクノロジーを学ぶことで視野を広くし、今の時代に合わせた幸福感のある企業とは何か、活力ある地域づくりとは何かを考えるきっかけ作りができればと思います。皆様のご協力の程、宜しくお願いいたします。

次世代の未来をつくる委員会

委員長 冨 晃之介



次世代の未来をつくる委員会は、「人口減少を前提とした企業、地域づくりにおいて次世代へ何が出来るかを考える。次世代の価値観を知り、また旧世代が次世代へ受け継ぐべきものを考える」ことを目的として設置された新しい委員会です。長引くコロナ禍により、私たちの日常も大きな変化を強い

られています。コロナ前には考えられなかったようなサービスが生まれ、それが当たり前になりつつあります。10年後、20年後、30年後の八代はどんな地域になっているのでしょうか。人口の急速な減少や高齢化という負の側面だけを見てしまえば悲観するしかないように思えますが、次世代との交流や学び合いを促進することにより、古い価値観からは負の側面にしか見えなかったことが好機となることもあるかもしれません。我々自身がこれからの時代や社会の変化に即応して力強く前進していくために、また次世代に地域の未来への希望を持って努力してもらうために、まず我々が固定観念や偏見を捨てて課題を見つめ、心を開いて次世代と学び合おうとする姿勢が必要だと思います。実は我々の手の届くところにも、貧困や虐待、いじめに苦しんでいることも多々あります。これからの時代を生きていくのに不安を抱えた若い世代もたくさんいます。私たちの取組みでそこに一筋の光を与えることができないのでしょうか。一人で考えていてもよいアイデアは浮かびません。本年度の委員会では、村田代表幹事のスローガン「まずは、議論から始めよう そして想定外の未来を創造しよう」のもと、ともに議論し、それを行動につなげて、次世代の未来づくりへの一歩を踏み出せたと感じるような活動が出来たらと思っています。委員の皆様と、若々しい気持ちで議論し、それを何らかの取組につなげることができればと思っています。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

情報システム委員会

委員長 岡崎 晶



毎月開催される委員会と例会など、限られた時間の中で、会員は集い学び議論を交わしております。さらに、欠席やコロナによる中止などで、その機会は少なくなってしまう可能性があります。各事業をより効果のある運動につなげるためには、リアルタイムな情報共有と意見交換、目的に合った情報発信により、各会員の力を横断的に結集し、外部と協働していくことが必要です。

まずは、会内で情報をより早く、正しく共有し、円滑で密接なコミュニケーションを行うために、グループウェアなどのITツールを検証し、導入を図ります。そして、各委員会、各会員がツールを活用できるよう、勉強会の開催やサポートを行います。また、情報発信を効果的に行うために、現在使用されている情報発信ツールを目的に合わせて整理し、活用方法を設定し周知させます。そして、多くの方に興味と理解、賛同を得られる情報発信を行うために、SNSツールの特性や使い方などを学ぶ機会をつくり、会員で共有します。

各会員のもつ異なる視点と考えが結びつき混ぜ合わされた、新しい価値観を産み出す土壌と、外部へ効果的に伝わる発信力が合わさることによる事業構築が想定外の未来の実現につながります。

定時総会

令和4年4月25日（月）ホワイトパレスにて定時総会が開催されました。3年ぶりに会場で開催出来、無事事業報告、決算並びに事業計画、予算が承認いただきました。懇親会も多くの来賓をお招きし、新年度の船出を多くの皆様方に祝福いただきました。本年度もよろしくお祈りいたします。



となりました。コロナ禍での開催でしたので、感染対策には十分配慮しながらの開催でしたが、滞りなく無事執り行うことが出来ました。お忙しい中、御参加頂きました対象会員の皆様、並びに慶寿の会を企画、運営して頂きました協働組織活性化委員会の皆様お疲れ様でした。



5月例会報告

テクノロジートレンド研究委員会では、株式会社フィノバレーの川田様、並びに人吉市商工観光課高田様にお越し頂き、電子マネー（電子地域通貨）のトレンドと人吉市におけるKijicoの活用事例と題して5月例会を実施いたしました。



7月例会報告

7月例会では、株式会社クラブネット様にLINE公式アカウントの活用方法等についてZOOMにてご講演頂きました。開設した八代経済開発同友会のLINE公式アカウントでも今後情報発信を行っていきます。ぜひ友達追加をお願いします。



慶寿の会

令和4年6月3日（金）グランドホテルにて令和4年度慶寿の会を開催し、傘寿、喜寿、還暦、厄入りをお迎えの計8名の会員の方々のお祝いを行いました。近年は、新型コロナウイルスの流行により中止となっていましたので、2年ぶりの開催



LINE
友だち募集中!

第1回 みんなで八代の未来を考えよう!

やつしろ高校生 未来会議




次世代の生の声を聞き、八代地区の未来づくりにつなげようと考え、やつしろ高校生未来会議を企画しました。市内の公立私立の各校からの約40名の高校生の参加を頂いています。

8月3日にオリエンテーションを行い、9月23日に課題探求フィールドワークを踏まえたグループワークを行い、来る10月29日は、ホワイトパレスにて、各校から探求結果の発表を行って頂きます。今後は高校生たちが考えた地域課題解決の方策について、それを実施することができるようにつなげていけたらと考えています。10月29日は八代経済開発同友会の10月例会として、やつしろ高校生未来会議を実施致します。皆様、どうぞお楽しみにしてください。



くまモンポート八代 夏祭り & キッズサッカー大会




昨年度より計画予定されていましたが、Sea級グルメin八代が8月28日に開催されました。昨年度の計画を踏まえて本年度開催においても、八代経済開発同友会主催のキッズサッカーを行いました。開会にあたり、村田代表幹事より子ども達に対しご挨拶を行って頂きました。試合においては、子ども達の元気な姿を見ることが出来、大会後は、Sea級グルメを楽しんでいただくことで、大きな動員を図ることが出来ました。

当日は、くまモンポートに1800人以上の来場者にお越しいただき「みなと」を中核とした賑わいの創出につながったと考えます。改めて多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。

実現させよう!

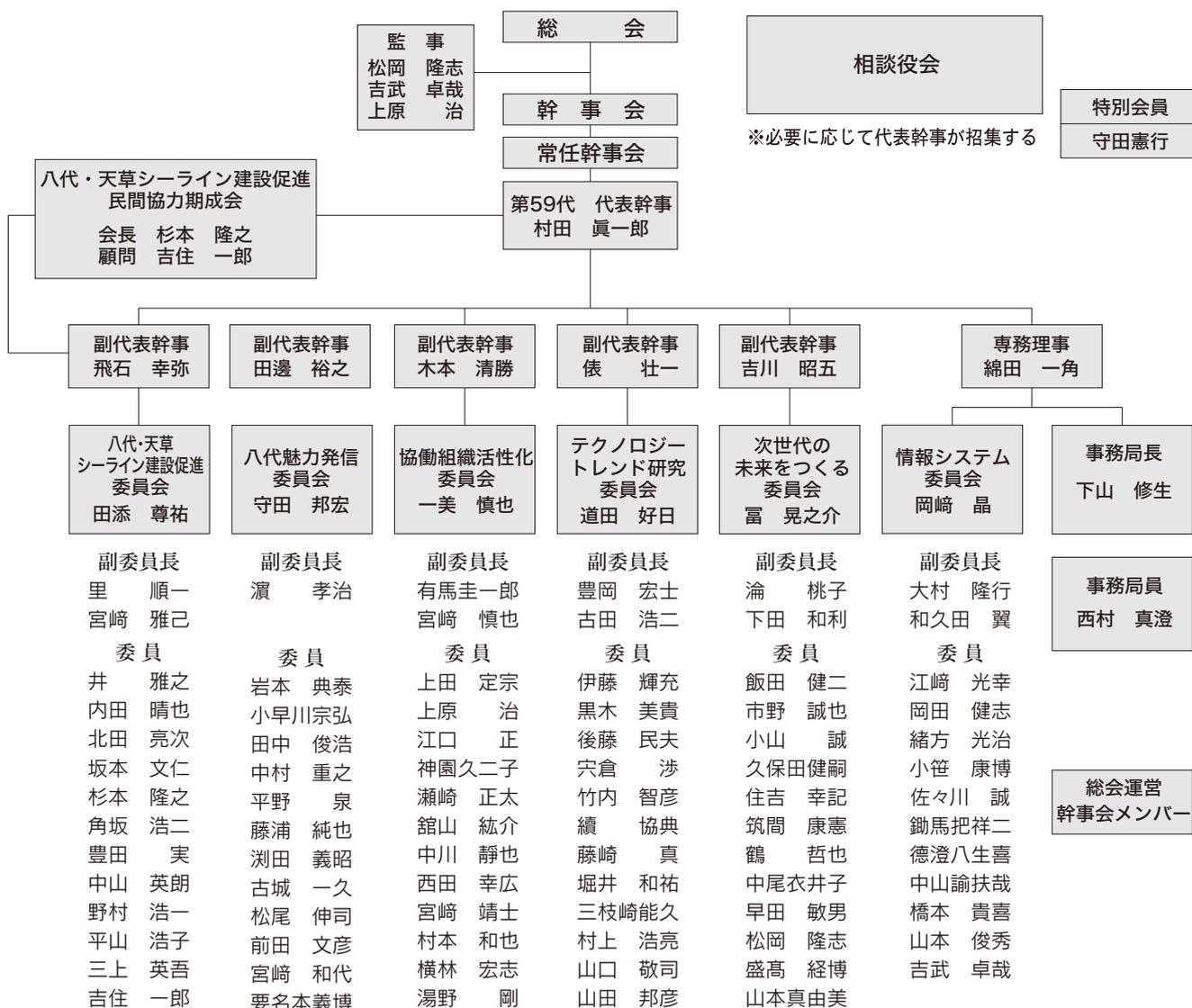
八代・天草シーライン

八代 ◀ 車で10分 ▶ 天草 8.8km



私たちは、八代・天草を結ぶ橋(八代天草シーライン)の早期建設を求めます!

2022年度(R4) 組織図



交代会員の紹介



松尾 伸司 会員

50歳
九州電力株式会社
八代営業センター長

理念

『ずっと先まで、明るくしたい。』
「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につ
なげていきたい。
それが、私たち九州電力の思いです。



岡田 健志 会員

41歳
松木運輸株式会社

八代で生まれ、小・中・
高と八代で育ち、大学だ
けは県外に出ましたが、八代が好きで戻っ
てきました。今でも野球小僧ですが、少しづつ
ゴルフ小侍となりつつあります。笑
微力ながらではございますが、八代のため
にと尽力させていただきます。
宜しくお願い致します。



平野 泉 会員

52歳
株式会社 熊本銀行
八代支店
支店長 兼
八代ブロック ブロック長

理念

『あなたのいちばんに。』
・いちばん身近な銀行
・いちばん頼れる銀行
・いちばん先を行く銀行

新 人 会 員

紹 介



湯野 剛 会員 42歳

有限会社 豊潤 (化粧品関係、お酒、ウイナーは扱っておりません)

多くの先輩方が築いてこられた会に迎えていただいたことを大変光栄に思います。
同時に活力に満ちた会だと例会にて実感致しました。これから学び、活力あ
る運営と、八代に少しでも貢献できる活動してまいります。よろしく願い致
します。